

「新しい東北」官民連携推進協議会
令和6年度 福島県意見交換会（第回）議事概要

令和6年10月9日
「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

【日 時】令和6年10月9日（水）15:00～17:00

【場 所】福島復興局 7階 多目的会議室／オンライン（Teams）

【出席者】（敬称略）

＜副代表団体＞（所属の五十音順）

福島県／福島大学／一般社団法人 ふくしま連携復興センター

＜意見交換会参加団体＞

株式会社 J ヴィレッジ

＜復興庁＞

復興庁 復興知見班／復興庁 福島復興局

＜事務局＞

株式会社読売エージェンシー／株式会社 JTB

【議事概要】

1 開会

復興庁知見班 笠間企画官より、経歴紹介と挨拶、および今年度の4月以降の復興庁の取り組み内容についての説明がなされた。

2 各団体の令和6年度上半期活動紹介

復興庁（資料2-1～資料2-5）、福島大学（資料3）、福島連携復興センター（資料4-1～資料4-3）より、上半期の取り組みを紹介した。

3 実践の場、および招待状作成ワークショップの進捗に関するご報告

＜本年度企画に関する意見交換＞

事務局より、J ヴィレッジを舞台とした実践の場、および招待状ワークショップの企画について、第1回意見交換会からの調整内容を説明し、当該内容に対する意見交換、ならびに、今後の実施内容等に関する意見交換が行われた

＜主な意見＞

- ・若者の意見を取り入れながら企画することは良いこと。浜通りは人手不足も大きな課題であり、参加した学生とのつながりを継続させることだけでなく、新たに参加する方を増やしていくことも大事。前者に関しては、今回の取り組みへ参加いただけではなく、なるべく多くの参加者との関係を継続させることも意識してもらいたい。
- ・運営委員会の学生からの声がけによって、彼らの想いに共鳴する方を当日の参加者として募る想定になっているが、学生任せだと負担もあると思うので県を含む副代表団体や復興庁も協力して、参加者を集めることもできると思う。
- ・チラシの構成として、細かい時間の設定が表せないとしても、プログラムの内容は可能な限り掲出した方が集まりやすい。
- ・どこに行く、なにをする等、意図、目的を示し、参加者の判断材料となる構成を加えた方が良い。
- ・昨年度の開催時に会場として使用した J ヴィレッジの部屋が、今年度の開催日程では一部使用が出来な

い状況のため、当日のスケジュールを検討する際に考慮が必要。

- ・福島においては、震災から13年を経過しているが、避難解除から数ヶ月しか経過していないような場所もあり、復興全体を捉えた議論が依然必要と考える。
- ・来年の実践の場を計画するにあたって、浜通りに来て挑戦している方たちとの交流による「挑戦の地」としての浜通りを体験してもらうことが良いと考える。体験した学生たちに浜通りへの移住や起業を連想させ、マインドを持った学生達が集う場所となれば、それが浜通りの地域の価値となり、そういった観点でも大学生や若い人を対象とした取り組みを継続させるのが良い。
- ・若い人向けの企画考案は、若い人たちによる実行委員会形式で検討するのが良い。これまでの取り組みにおいても、運営委員会や参加者からリピーターが集まっている。この学生達が次の人たちに声をかけて行くことによって、新しいメンバーも加え運営委員会が引き継がれていくのが理想的である。
- ・浜通りでは人口減少、人手不足、風評被害や製造業の問題など、様々な多くの課題があることを認識したうえで、副代表団体で対応出来ることも加味した取り組みを計画し、最大の成果を得られるように連携して進められるのが良い。
- ・若い方たちに興味を持ってもらい積極的に参加してもらう切り口として、スポーツを活用するのも良いかと思う。スポーツへの参加を通じて、この取組に興味を持ってもらうことができる。

4 閉会

第2回意見交換会では、福島県の実践の場および招待状ワークショップの進捗に関する報告と、その内容、および次年度以降の取り組みについての議論がなされた。昨年度の取り組みを踏まえ、今年度も学生中心の運営委員会を発足しており、今後は運営委員会内にて実施内容についての協議を行っていく。